

# 神経内科とはどんな病気を扱う内科でしょう？

神経内科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科です。体を動かしたり、感じたりする事や、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなったときにこのような病気を疑います。症状としてはしびれやめまい、上手く力がはいらない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせ、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、かつてに手足や体が動いてしまう、ものわすれ、意識障害などたくさんあります。まず、全身をみれる神経内科でどこの病気であるかを見極めることが大切です。その上で骨や関節の病気がしびれや麻痺の原因なら整形外科に、手術などが必要なときは脳神経外科に、精神的なものは精神科にご紹介します。また、感じることの中には見たり聞いたりする能力も含まれますが、眼科や耳鼻科の病気の場合もあります。どの診療科に受診するのが一番ふさわしいかは、おかかりになる病院に前もって問い合わせるとよろしいでしょう。

## 神経内科の主な症状

- ・ 頭の痛み
- ・ ものわすれ
- ・ しびれ
- ・ めまい
- ・ むせ
- ・ 意識障害
- ・ かつてに手足が動いてしまう、ふるえ（不随運動）
- ・ うまく力がはいらない（脱力）
- ・ 歩きにくい、ふらつき、つっぱり
- ・ しゃべりにくい、ろれつがまわらない
- ・ ひきつけ、けいれん
- ・ ものが二重に見える（複視）

## 神経内科の主な病気

- ・ 頭痛
- ・ 脳卒中
- ・ 痴呆
- ・ てんかん
- ・ ミオパチー
- ・ 神経炎
- ・ パーキンソン病
- ・ 神経難病
  - 筋萎縮性側索硬化症、
  - 多発性硬化症、
  - 脊髄小脳変性症、
  - 他系統萎縮症 など

# 神経内科と他の科はどのように違うのでしょうか

よく神経内科はわかりにくいといわれます。科の名称が紛らわしいためと思いますが、特に間違えられやすいのが精神科、精神神経科、神経科、心療内科などです。これらの科は精神科の仲間で、おもに気分の変化（うつ病や躁病）、精神的な問題を扱う科です。また、心療内科は精神的な問題がもとで体に異常をきたしたような病気を扱う科で、もともと内科のトレーニングを受けた先生が多いのですが、一部精神科の先生方も心療内科として診療を行っています。

神経内科はこれらの科と異なり、精神的な問題からではなく、脳や脊髄、神経、筋肉に病気があり、体が不自由になる病気を扱います。まず、神経内科でどのような病気が診断し、手術が必要な病気の場合は脳神経外科にご紹介します。脳神経外科は外科ですので、基本的に手術などが必要な病気を扱います。脳腫瘍や脳動脈瘤などが脳神経外科でみる代表的な疾患です。

精神科の病気のほとんどが実際に病気の患者さまの脳を拝見しても異常を見つけられないのに対し、神経内科で扱う病気は脳をみるとなにかしら病気の証拠を見つけることができます。但し、中には精神科と神経内科どちらでも見る病気もあり、痴呆やてんかんなどはその代表的なものです。最近は痴呆も原因がわかりつつあり、脳の変化もよくわかってきています。

このようにいろいろな科が関係することもあります。まずは全身をみれる神経内科にかかっていたら、必要であれば他の科に紹介していただくのが望ましいと思います。

また、大学によっては神経内科とよばず脳神経内科などほかの名称の場合もあります。